

2023 年度

あさひかわオープンカレッジ連携講座

報 告 集



[撮影] 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター白井暢明

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

共催：旭川市教育委員会

刊行にあたり

旭川市内には5大学1高専の高等教育機関がある。また、人口30万人を超える旭川が今なお道北における学術・文化の重要な拠点であることは言うまでもない。だが、近年ますます東京一極集中が際立つようになり、それどころが東京以外の地方都市は、人口200万人を超えるような大都市であったとしても、今後徐々に人口が減るであろうという予測がなされている。このような状況下であって、地方の弱体化は避けられない運命のようにも思われる。

そもそも学術・文化、あるいはこれと密接に関わる教育というものは、利益の追求とは根源的に相容れないものであり、それゆえに国や自治体が十分な予算を配置し、これを振興すべきものであるはずなのだが、いつしかこれが反故にされてしまった。もちろん、金を出しても口は出さないのが当然である。イギリスでは新自由主義的なサッチャリズムにより1980年代の終わりにはすでに公教育が破滅へと向かうルートが示されていたはずなのだが、そこから何も学ぶことのなかった日本は、遅れてきた新自由主義がさまざまなシステムを徹底的に破壊してしまった。あげくの果てが昨今の「稼げる大学」法案こと「国際卓越研究大学」に関する法律であったり、「10兆円大学ファンド」であったりする。

こう見てくると2006年の改正教育基本法は「生涯教育の理念」を掲げこそしたものの、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する」というなにやらお節介な文言を盛り込み、また義務教育では「規範意識や公共の精神、伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛する態度」を強制した。あげくの果てが「道徳」の教科化である。国家に都合のよい国民を作ろうとする愚民化政策はこうして今も続いている。そしてついに現政権は日本学術会議にまで横槍を入れ始めた。

こんな今だからこそ地方の自発的な文化的営為によって、真の生涯教育や地方における学術・文化の維持、発展を続けて行かなければならない。「あさひかわオープンカレッジ」が地方からのささやかなレジスタンスとなることができれば、これほどの喜びはない。

北海道教育大学教授 十枝内康隆

目次

第1回「システムズエンジニアリングの実際について ～宇宙開発アプローチをベースとして～」	
旭川工業高等専門学校 准教授 福澤 修一郎	… 2
第2回「早期英語教育は役に立つのか？」	
北海道教育大学旭川校 講師 金山 幸平	… 4
第3回「こどもホスピスって知っていますか？～子どもの命が輝く場所～」	
旭川市立大学短期大学部 教授 佐藤 貴虎	… 6
第4回「ウェルビーイング（幸福）社会実現のために」	
旭川医科大学 名誉教授 吉田 貴彦	… 9
第5回「駅とまちづくり～新しい旭川駅の竣工から12年～」	
東海大学 名誉教授 大矢 二郎	…12
第6回「宗教とは何か？－人生における宗教の意味と功罪」	
旭川工業高等専門学校 名誉教授 白井 暢明	…14
第7回「健康とは何か？高齢者の健康と自己実現を考える」	
旭川市立大学 教授 長濱 章雄	…17
第8回「いのちの誕生～卵管の中で卵子と精子が出会うまで～」	
旭川医科大学医学部 講師 日野 敏昭	…19
「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果 サテライトキャンパス U-プラザ事務局	…21

「システムズエンジニアリングの実際について

－宇宙開発アプローチをベースとして」

2023年6月24日(土) 13:30分～15:00分

旭川工業高等専門学校 准教授 福澤 修一郎

システムズエンジニアリング(システム工学)は、言葉を聞いただけではなかなかイメージが湧きにくい学問分野だと思います。システムズエンジニアリングを簡単に説明すると、一定の制約条件のもとで、ある目的を達成する大規模なシステムを計画・開発・運用するための工学的的方法論です。しかし、巷には多種多様なシステムがあふれ、それを包括的に扱うシステムズエンジニアリングの内容も、システムの定義から始まり、システム開発の方法論、開発に用いる各種技法、システム制御理論、信頼性工学、モデリングとシミュレーションなど、必然的に広範囲かつ汎用的な記述にならざるを得ず、自分が関わっている事象に応用しようとしても具現化しづらく感じがちです。

私は大学院の修士・博士の5年間および職員としての3年間の計8年間、旧文部省宇宙科学研究所(現JAXA)に在籍し、少人数・短期間・低コストで効率よくプロジェクトを実行する実証主義的システムズエンジニアリング(宇宙研方式)の方法論に触れました。特に、職員としての3年間は、当時、システム工学の権威であられた長友信人教授の直々のご指導をいただき、太陽発電衛星研究を題材にして、段階的プロジェクト計画法(Phased Project Planning)のうち、概念検討・概念設計の方法論を体得しました。そしてこの経験を、その後の民間企業の研究所における点検システム開発業務や、旭川高専で取り組んでいる作業型ドローンの研究開発に活かしてきました。

幸い今回、一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム(AWBC)殿から、システムズエンジニアリングの実際についてお話しする機会を頂きました。そこで、講演ではまず、私が宇宙研で体得した知識・経験に基づき、システム要求の設定項目や注意点、全体システムの構成要素への分割方法、分割した構成要素のアーキテクチャ設計の内容とトレードオフの考え方などを示した上で、次に、システムズエンジニアリングの具体例として、民間企業における点検システム開発事例や、旭川高専における作業型ドローンの研究についてお話ししました。この講演により、実証主義的システムズエンジニアリングの全盛期にあった、宇宙研のシステム開発思想を、受講者の皆様にお伝えできたと自負しています。

受講者は総勢10人ほどでしたが、中に一人だけ高校(旭川北高等学校)の生徒さんがいて、目を輝かせながら私の話を聞いてくださり、とても嬉しく思いました。また、私のつたない研究者人生の中で実感している研究における大切な姿勢「何事も自分でやってみること」

「自分なりの『考える視点』を確立すること」「一面的ではなくいろいろな視点で考えること」「自由な発想を妨げないよう心がけること」を、若い人に伝えることができよかったと考えています。最後になります、私の講演内容を、株式会社メディアあさひかわ殿に取り上げて頂いたことに感謝申し上げます（月間メディアあさひかわ 2023.8 No.364 pp.157）、講演実施報告に代えさせていただきます。

<講義風景>



宇宙科学研究所（JAXA）で宇宙空間作業の技術開発に携わった経験から、ロボット機能を搭載した、作業用ドローン開発をモデルに、システムエンジニアリングの考え方を分かりやすく解説していただきました。将来宇宙飛行士を目指す高校生の受講者との宇宙開発の現状についての真剣な意見交換に、会場は温かい雰囲気にも包まれ、明るい未来を語る楽しい講座でした。

受講者 8名

「早期英語教育は役に立つのか？」

2023年7月8日（土）13:30～15:00

北海道教育大学旭川校 講師 金山 幸平

多くの人は「若いうちから英語を学ぶことで将来英語が話せるようになる」「脳が若いうちは、英語の音をスポンジのようにどんどん吸収させることができるためネイティブのような発音を手に入れることができる」「幼い時に英語圏に引っ越した子ども（帰国子女）は英語がペラペラに話せるようになる」などと考えている。本講義では、「日本人は日本で英語を早くから学ぶとそれだけ有利になるのか」というテーマで講演を行った。講義の最初は、講義内容を理解するために必要な基本的な専門用語（臨界期、失語症、左脳、可塑性、一側化など）を解説した。

その後、母語獲得と臨界期（生後9年前後と言われている）の関係性について紹介した。臨界期までに母語に触れないと母語を獲得することはできないのだろうか。ほぼ間違いなく獲得できないだろう、しかし、それは実験などを通して検証することは倫理的にできないため立証はできない。そこで、逸話や事件から（オオカミに育てられた少年の逸話、虐待されて育ったジーニーの事件）、生後10年程度母語に触れることができなかつた子どもたちが保護された後に母語教育を受けたが、残念ながら母語を獲得することができなかつた話を中心に紹介した。

講義の中盤では、第2言語環境と臨界期の関係性について紹介した。第2言語環境とは、第2言語が日常的に使用されている国でその言語を学習する状況を指す。例えば、日本人がアメリカで英語を学ぶ状況である。英語を第2言語とする国は、イギリス、カナダ、オーストラリア、フィリピンなどが挙げられる。臨界期までに第2言語環境で第2言語を学ぶとどうなるだろうか。講義では、実際の研究を紹介して、第2言語環境（多くは英語圏）に移住してきた年齢と第2言語の熟達度（英語力）の関係性を紹介した。多くの研究から、早くから第2言語環境下で第2言語を学ぶことがより高い熟達度に繋がることを解説した。

このことから、「日本でも早くから英語を学ぶべきだ」と考える人が増えるだろう。講義の終盤では、英語が話されていない国でその言語を学ぶことと年齢には大きな関係がないことを紹介した。日本で英語を学ぶ環境を外国語環境と言う。英語を外国語とする国は、日本、中国、韓国、スペインなどが挙げられる。これらの国で英語を学ぶ際に一番重要なのは、総学習時間であることを解説した。つまり、地道にコツコツと英語を勉強し続けないと英語が話せるようにはならない。

講義の最後に、日本で英語の総学習時間を増やすためには何が必要かを解説した。「英語を学ぶ楽しさ」「英語でやりとりできた時の感動」「英語を学ぶ必要性」「英語をもっと勉強

したいと思わせること」などの気持ちを与えることである。幼い子はこのような気持ちにさせやすい（反対に、指導の仕方を間違えれば英語嫌いを生み出しやすい点にも注意が必要であるが）。

本講義で一番に伝えたかったことは、早くから英語を学ぶから英語が話せるようになるわけではなく、早くから（英語を好きにさせやすい年齢）英語を学ぶことで、中学生以降でも継続的に英語を勉強し続けて、結果的に総学習時間が増えるから英語の上級者になる可能性が高くなるという要約で講義を終えた。

<講義風景>



小学校から英語を学ぶ時代となり、幼いうちから英語を学ぶことの風潮について、統計などのデータをとおして、冷静な対応を促す講座となりました。「何のために学ぶか」の基本的なアプローチが必要で、意欲があれば年齢・年数はあまり考えなくてもよいとのお話しに、高齢の受講者は安心していました。また、受講者から、幼児を持つ、もっと若い父母に聞いて欲しいテーマだったとの意見もあり、受講者に多くの示唆を与えた講義となりました。

受講者 8名

「こどもホスピスを知っていますか？」 ～こどもの命が輝く場所～

2023年7月22日（土）13：30～15：30

旭川市立大学短期大学部 教授 佐藤 貴虎

北海道の現状

文部科学省が令和2年度に「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」を各都道府県に委託し、北海道も検討会議を立ち上げた。令和3年度は「高等学校段階の病気療養中等の生徒に対するICTを活用した遠隔教育の調査研究事業」の委託を受け北海道教育委員会が「高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業」を開始した。

○子どもの権利の特徴 [受動的権利]

・「子ども」という時期にあるがゆえに必要なとされる子どものための権利保障

「育成される」「愛護される」「尊ばれる」

「こどもホスピス」は重い病気と共に生きるこどもとその家族が病院と自宅以外の居場所として、安心して過ごし、遊びや学びを通して、こどもとしての時間を十分に持つことのできる育ちの場です。

家族にとっても安らぎの場となるような環境が整えられた場であり「こどもがこどもとして生きることを保証する場」の1つである。

こどもの「生きる(生活、人生、いのち) (Live Deep)」を支える場の1つであり、日本には現在、大阪、横浜の2か所しかないのが現状である。なぜ？

- ・子どもの死が稀で家族の受容が困難であること（寄り添う姿勢）
- ・子どもは対象となる疾患の種類が多く、しかも稀な疾患が多い。結果として経過も異なり、時として進行が急速で予測困難である。
- ・子どもは発達・成長を考慮することが求められる。（生活重視、環境重視、学校との関わり日常で関わる場・人が多く配慮が必要）

[小児緩和ケアの特性]

・Life-threatening conditions、つまり死と常に向き合いながら、“限りあるとき”を生きている子どもと家族の生活と人生を支え続けることである。

■難病とともにあるこども達とその家族の現状と課題

- ・病院や在宅療養のこども達はあそびやまなびなどの経験を十分にできない。
- ・支援がなければ、こども達の生活は心理社会的に十分ではない。
- ・命を脅かす状態にあるこどものきょうだい達は、我慢を強いられ、同時にこどもとし

での十分な経験が受けにくい。

- ・ 24 時間・365 日介護の保護者達の疲労・疲弊と、家族の結びつきへの影響が大きい
上記のような状態にあるこども達、保護者のサポートの仕組みが不十分（ほぼない）

[私たちのめざすもの]

○世界のこどもホスピスの特性や理念

- ① "Local initiative (地域に根ざした自発的な活動) "
- ② "Home from Home (病院ではなく家である) "
- ③ "Friendship (友として寄り添う) "
- ④ "Free Standing (制度に依拠しない施設、寄附に依った慈善事業) "

私達も生命を脅かす病気の子どもたちやきょうだいさん、ご家族に寄り添い、こどもたちの多様な夢や望み、挑戦を支えるための施設をここ北海道に設立し運営することを目指しています。

○こどもホスピスの対象

命を脅かす病気（小児がんや重い障がい、難病など）とともに生きるこどもとその家族が対象となります。

- ・ 先天性疾患 ・ 進行性中枢神経疾患
- ・ 非進行性脳障がい ・ 小児がん
- ・ 神経筋疾患 ・ 内分泌代謝性疾患
- ・ 呼吸器疾患 ・ 心疾患

○こどもホスピスの実態

(英国のこどもホスピス 43 施設の報告) ・ 腎疾患 ・ その他

(英国中西部での) 有病率 8 - 10 人 (10,000 人当たり)

1 年間に 10% が死亡

利用者数 7,638 人/年

生命を制限する病気を持つ子どもの半数が利用している

死亡者数 701 人/年

大半は病院 (40%) か自宅 (31%) で死亡

友として寄り添う

「友達とは何か？」 - 楽しい時間、つらい時間、悲しい時間をわかちあう関係

- 気兼ねなく話ができる

- 制度での保障はそぐわないもの

- 商品化しがたいもの (Priceless)

◎医療者と患者・家族の関係である前に友として関わり続けることである。

<講義風景>



小児「がん」は、ほとんどがそれぞれ希少疾患で、完治が難しいことの説明がありました。病気に立ち向かう子どもと、それを支える人たちとの感動的な報道映像をとおして、「ひとりひとりの生き方に寄り添いながら、病と向き合っていく『場』として『こどもホスピス』が必要であること」を講師自身の活動をとおしてお話いただきました。受講者からは取組への共感の言葉が多く寄せられていました。

参加者 10名

「ウェルビーイング（幸福）社会実現のために」

2023年8月26日（土）13：30～15：30

旭川医科大学 名誉教授 吉田 貴彦

（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター）

人の健康は世界保健機構（WHO）が「健康の定義」として1948年に発表しています。「健康とは、単に疾病または虚弱でないというのではなく、肉体的、精神的および社会的にも完全に良好な状態にあることを言う。」というものです。この中で「良好な状態」は英語の原文ではwell-beingという言葉です。

旭川では2008年5月に旭川圏域の4大学1短大1高専からなる高等教育機関を主体とする連携体「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム（AWBC）」を設立しました。設立の理念・目的に「圏域住民の身体的・精神的・社会的な健康（ウェルビーイング）を達成するとともに旭川エリアの教育・地域振興を図ることを目指す。」と書かれています。人の健康と圏域の人材育成・地域振興（元気の良さ）の両方の良さをwell-beingと捉えて、それらを達成するAWBCにウェルビーイングの名を冠しています。

人の健康の状態は、宿主（本人）の生体治癒力と外的有害要因（環境や生活習慣など）の影響の大きさのバランスで決まります。人の幼少期からの生活習慣に乱れがあるとやがて病気のもと（健康診断での数値の異常など）が出来ます。この状態が続くと、いずれ病気（生活習慣病）が発症し、若死や障害の発生につながります。私達を取巻く要因としての社会情勢として、欧米型食事などの食生活の偏り、運動・身体活動不足をもたらす日常生活の変化、ストレス社会、後天的な個人要因も健康の阻害につながる生活習慣となります。

病気の治療、健康の回復は健康状態が良くない人への対処法で主に現代医学・医療によって達成されます。一方、健康状態が良い人への健康を守るための対処法を健康増進といい統合療法に属するもので達成されます。統合療法とは近代医学・西洋医学（治療）の対として使われる言葉で、自然療法、運動療法、食事療法、東洋医学、心理療法などがあります。

健康を保つための基本的三要素として、栄養・食、身体活動（運動）・労働、休養があります。現代の私達の社会は、車社会や機械化により身体活動の少ない状況にあります。しかし、飲食習慣は変わらないためカロリーオーバーで肥満になりやすいのです。運動不足の弊害は多いので、積極的に身体を動かしカロリー及び栄養素のバランスの取れた食生活が大事です。また、現代社会には様々なストレス要因があり心身の健康を脅かします。その解消のため休息・休養が必要です。健康作りには、自然環境が持つ保健作用を活用する受動的健康作りと、参加者自らの意志で行なう積極的健康作りがあります。先に述べた栄養・身体活動・休養は後者に当たります。前者は保護性環境に身を置くことで達成され、旭川圏域にはこれに

適した環境が揃っています。温泉浴や森林浴がそれにあたります。そうした自然環境は、散策や運動の場として受動的な健康作りに活用できます。また、旭川圏域は農畜産業が発達しており新鮮な食材によるスローフード（地産地消）が可能でありヘルシーに調理することで積極的な健康作りにつながられます。こうして、私たちは居ながらにして旭川エリアの健康を保つために優位性のある地域資源を享受できるのです。

同じ地域に居住する住民相互の交流（触合い、共同活動など）が保たれて成立する地域社会（集団）を地域コミュニティと言います。そして、住民全てが連帯感、共通意識、相互信頼の上に積極的に地域コミュニティを住み良くしようとする活動を街造り・街興しとといいます。この街興しの主役である住民の健康度が高ければ、本人も家族も社会も安寧です。仕事の質も量も高まりますから収入も増え地域の会社や産業が繁栄するでしょう。医療費が減る事も相まって持続的な発展が可能な社会が醸成されます。こうした社会は住み良く人々にゆとりがあるので皆がこぞって集まり、さらに良い街造りに向けた活発な取組がすすむ好循環が生まれます。この際に、地域の課題を地域住民が見出し解決する意欲を持つこと。老若男女・多種多様な地域住民の皆が参加し交流すること、役割分担・助け合いの精神を持ち、地域の産品・製品・サービスに愛着を持ち互いに利用する事などが街造り・街興しを推進するためのキーワードとなります。

地域の住民は、自らの健康（心身の健康度）と幸福（社会的要因を多く含む）を確保し、より良い日常生活を楽しみたいと思うものです。また、地域の産業・企業は、活発かつ環境に配慮した持続的な発展を可能とする活動を続けようとしています。この両輪がかみ合わさるとき、ウェルビーイングな社会が実現するのです。

<講義風景>





WHOの健康の定義である「ウェルビーイング」の解説から始まり、大学が連携して地域のウェルビーイング（幸福）に貢献するために設立した「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」の活動をお話ししていただきました。また、身体健康作り三原則における地域資源の活用など、個人の健康と地域の健康などを様々な視点から丁寧に熱くお話ししていただきました。

参加者 18名

「駅とまちづくり～新しい旭川駅の竣工から12年～」

2023年9月16日（土）13:30～15:30

東海大学名誉教授 大矢 二郎

（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター）

2011年にグランドオープンした新・旭川駅が旭川のまちづくりに果たした役割を、1998年に着工、2014年にインフラ整備が終わった駅周辺開発計画「北彩都あさひかわ」との関連を通して検証した。

駅は、一義的には鉄道とその他の交通手段との結節点（ハブ）であるが、同時に、街の「表玄関（ゲート）」あるいは「顔」として人々に強い印象を与える施設である。そこでは時に人々の出会いや別れのシーンが生まれ、それが小説、映画、歌の歌詞などに駅がしばしば登場する所以である。

旭川では1900年に旧陸軍第七師団が札幌から鷹栖村近文に移駐、その後、軍都として発展した歴史を持つが、その前々年に滝川・旭川間の鉄道延伸があり、初代旭川駅が誕生したことを見ても、まちづくりと鉄道との強い関わりが理解できる。

4代目となる現在の旭川駅は、駅周辺開発計画「北彩都あさひかわ」事業の一環として誕生した。この事業は面積約86haの旧国鉄車両基地跡に新たな都心を形成したもので、道路、画地、公園等の整備をする土地区画整理事業、延べ3.5kmに及ぶ鉄道高架事業、忠別川に3本の橋梁を新設する街路事業、及び、対象地に隣接する土手の緩傾斜化を図る忠別川河川空間整備事業など、総事業費約1080億円の大プロジェクトであった。事業主体も国、道、市、JRなど多岐にわたり、ともすると事業主が各々の管轄内で個別に事業を展開する可能性もあったが、このプロジェクトでは初期段階から各事業主体が共通の開発イメージを共有する体制が敷かれ、それが有効に機能した。開発地区のデザインコンセプトとして「川からのまちづくり」が掲げられ、アメリカのランドスケープアーキテクト・W.ジョンソン氏が描いたスケッチが開発の目指す方向性を目に見える形で示した。17年間にわたり各事業間の調整役を担ったのは、筆者も委員として参画した「まちづくり推進会議（旧：まちづくり検討会）」という協議体であった。

新・旭川駅を設計した内藤廣氏は、日向市駅や高知駅など駅の設計では多くの実績を持つ建築家で、旭川駅を「川のある駅」と呼んで当初から忠別川に近接する立地を強く意識して設計を進めた。構造家・川口衛氏との協働により「樹林案」と「大架構案」の2案が提案されたが、最終的には両案を融合した駅舎が実現した。旭川のメインストリート・平和通買物公園を南に歩くと正面に視線を受けとめるのが駅だが、ホーム上の大屋根（トレインシェッド）を支える2組の4叉柱の接続部が平和通の中心線とぴたりと一致してアー

チのように見える。駅前広場を通過して西コンコースに入ると、そこだけ柱間隔が20mになっていて、これは平和通の道路幅と同じだ。鉄道高架事業は北海道、駅舎建設はJRの管轄だから、両事業主が計画段階で協調していなければ生まれなかったデザインである。駅に街のゲートとしての意味を付与するために街の骨格と関係づけた建築家の見事な技と言える。コンコースを通り抜けて南広場に出ると、一転、眼前に緑豊かなガーデンと忠別川の景観が広がる。駅が市街と自然との結節点になっていて、旭川というマチのイメージが強く印象付けられる。

<講義風景>



始めに、都市の「顔」としての駅の役割を文学・映画作品をとおしてお話しいただきました。そして、旭川駅を中心とした「北彩都地域開発プロジェクト事業」のお話しを、駅表の買物公園・駅裏の忠別川との自然と都市空間の一体化など、次世代につながる市民の財産とするための、設計者の建築思想と熱い思いを、開発に関わった建築家ならではの秘話に、受講者も改めて「北彩都地域」を見直す契機となる講座でした。

参加者 21名

「宗教とは何か？～人生における宗教の意味と功罪～」

2023年10月14日（土）13：30～15：00

旭川工業高等専門学校 名誉教授 白井 暢明

（旭川ウェルビーイング・コンソーシアム教育コーディネーター）

■宗教の現状：現在世界の人口の3分の2以上はなんらかの宗教を信じている。

■宗教の定義：人間の力や自然の力を超えた存在への信仰を主体とする思想体系、観念体系であり、また、その体系にもとづく教義、行事、儀礼、施設、組織などをそなえた社会集団のことである。

■宗教の分類：①一神論（ユダヤ教、キリスト教、イスラム教）、②多神論（ヒンドゥー教、神道）、③汎神論：現実には神と同一である、あるいは、すべてのものの中に神が存在しているという考え方。

■キリスト教

① 神概念：この世界の創造者としての神（『旧約聖書・創世記』天地自然、そして人間も神の被造物。

② 罪：人はみな神に背こうとする性向を潜在的に持っている。その起源は神の命令に背いて「善悪を知る木の実」を食べたアダムとエバにある（『創世記』）。（原罪思想の物語化）

③ 神との新たな契約：人びとはこの原罪のゆえに自力での救済はできない。そこで神は人びとを救うために、自らの独り子イエスを地上に遣わし、人びとの罪を一身に背負って十字架上でその身を神へのいけにえとして捧げた。イエスのこの自己犠牲により、地上の人びとは神によって赦（ゆる）された（贖罪）。このイエスをキリストをメシア救世主として信じなければならない。

■仏教

開祖はゴータマ・シッダールタで、彼が悟った者（仏陀）になった。彼を模範にして悟りの境地に達することが仏教の目的である。「仏陀」はあくまでも人間であり、神ではない。彼の死後、その弟子たちによって作られた初期教団から、部派仏教の時代を経てB.C.1世紀頃から大乘仏教が生まれた。

■仏教の教義：①縁起：あらゆるものは原因と条件によって生起し、消滅するという世界のあり方

②無常、非我、無我：もしあらゆるものが原因と条件によって生成消滅するという縁起の性質をもつのであり、因果関係から独立した固定的な実体は存在しないことになる。

③空：言葉や観念（＝固定化）にこだわりすぎると、世界のありのままの姿はつかめない。言葉やその表す区別、観念を固定化・実体化することなく、その向こうにある世界のあ

るがままの姿のほうを大事にしようという考え方

④「色即是空 空即是色」：色（物質的現象）は空（縁起から生じたもの）であり、すべての色は空から生ずる。あらゆるものへの「執着」の否定

■すべての宗教の共通点

・すべての宗教は、なんらかの「超越的・神秘的な存在（神 etc.）や原理（空 etc.）」を想定することによって、「人間存在の不完全さ：有限性」（＝自己中心性、我執・過剰な欲望、日常性への埋没）を意識させる。（キリスト教：原罪、 仏教：我執 etc.）

・この意識を基にして、より良い心のあり方や生き方とは？を考えさせ、その答えを示唆する。モラル・道徳（個人よりも社会性）の尊重

・「生と死」になんらかの意味付けを与える（死後の世界：天国、極楽浄土などの観念）
⇒安らかな死の受け入れ、緩和ケア ⇒なぜ人間は歳をとるにつれて信心深くなる？

・以上の目的をよりよく達成させるための何らかの独自の（非日常的な）方法論（儀礼、礼拝、瞑想、修行 etc.）を提示する。⇒芸術（美術・音楽）の発展

■今後の宗教に期待されること

・際限の無い欲望の否定・抑制：カネ・モノ、権力、経済最優先社会の見直し⇒争いや戦争の否定（平和・連帯の希求）

・「幸福」とはなにか？の考え直し：真の幸福とはモノの豊かさではなく、ココロの充実感＝安息

<講義風景>





講義は、国際紛争や社会問題となる「宗教」について、社会情勢の解説から始まりました。キリスト教・仏教また日本の神道などを、歴史背景・変遷、教義の概要などを丁寧に解説いただきました。西洋のキリスト教を中心とする思想と仏教・神道などの東洋思想の違いなども分かりやすいお話しでした。キリスト教から発展した音楽（五線譜）・絵画などの芸術や科学技術の発達による人類への恩恵と弊害。地球環境など自然との共生を根底とする東洋の宗教への回帰傾向など2時間に及ぶ講義を熱心に受講していました。

参加者 41名

「健康とは何か？～高齢者の健康と自己実現を考える～」

2023年10月21日（土）13：30～15：30

旭川市立大学 教授 長濱 章雄

「なぜ人には老後があるのか」という問い掛けから、今回の講義を始めさせていただきました。世界的な長寿国における日本において老後があるということについては、我々は日頃から深く意識をしていないのではないのでしょうか。どのような老後を生きるのか、健康で長生きをしたいということは多くの人の願いであります。しかし生物学的にみますとシャチやゴンドウクジラなど特定の動物を除いて通常は老後という時代はありません。長い歴史の中で孫の育児に関わるという役割がその後の長寿の一因になっていますので、ぜひ、人に与えられた老後という役割を、自身の人生の充実と豊かさにつなげることを意識していただきたいところです。

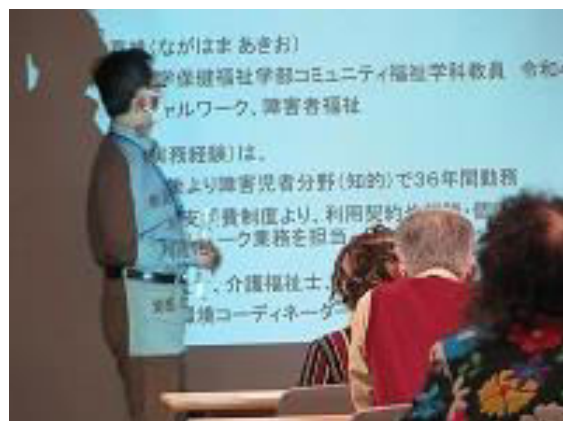
次に「健康とは何か？」という問いですが、世界保健機関（WHO）憲章で述べられている「健康とは、単に病気ではないとか、身体が弱くないというだけでなく、身体的にも、精神的にも、そして、社会的にも完全に調和のとれた状態である」という定義を見ますと、人がいかに社会的な生き物であるかということが分かります。社会的というのは、社会の一員として、心・身だけでなく、その人の人生をも含めて存在状態を捉えるものということになりますので、「どう生きているか」という生活の質を大切にしなければなりません。

健康の判断基準に、主観的な健康、客観的な健康、精神的な健康という捉え方があります。特に精神的な健康は、自分自身のなかで「健康である」と判断できる状態であり、まさに「やる気や前向きな気持ち」の表れとして、幸福感や充実感に限りなく近い言葉といえるでしょう。そのためにも、日頃から現実の適切な認識、行動を自発的に制御できること、自尊感情と受容、情緒的な関係を形成する力、そして生産性を精神的な健康感じる要因として日々意識していただきたいと思います。また、言語性知能は高齢になっても衰えないというデータがあります。言語性知能が維持されるということは、年齢を重ねることで、人生体験や社会との接触による視野の広がりによるものであり、多彩な思考力や判断力が強化されていきます。このような人がもつ能力も人生の40%ほどを占める老後に積極的に活かすことが大事になります。

人は誰もが生物学的な加齢を避けることはできませんが、心の加齢は、必ずしも生物学的な加齢と一緒に進むとは限りません。心の若い人は「挑戦」や「開放的な笑顔」「外向的な対人関係」などを行いながら一生現役を目指します。そのことは、昨今随分と取り上げられるようになった「健康寿命」を伸ばすさまざまな要因の一つになり得るものです。そのような生き方は、ものごとをポジティブに捉えることでもあり、老年期の身体機能の喪失に対し

て、「精神的な豊かさやビューティースローライフを価値」とする補償メカニズムの発達につながります。また、誰もが、自己の才能、能力、可能性を十分に活かし、自らを完成させ、成しえる最善を尽くそうとする「自己実現」の強い欲求を持っています。人が進化の過程で、寿命を延ばしてきたのは社会の中に居場所を見出したことによるものです。自己実現のためにも、集団の中で、総体的に経験・知識あるいは技術に長じた、ものごとを広く深くバランスよく見られる、本来の意味である「シニア」を目指していくことをお勧めいたします。

<講義風景>



冒頭、後ろまで声が届くか確認した後、最後までマイクを使わない熱のこもった講義でした。福祉現場での長い経験から「老後」を生活の質を維持しながら過ごすにはどうしたらいいかをわかり易くお話ししていただきました。身体の健康とともに、自分の生きがいを持ちながら、社会との接点（居場所）を見出して生活することが大切だとの話に、参加者も納得の表情でした。受講者は70歳以上の方が多く、それぞれの生活に活かせることの多い、元気の出る楽しい講座となりました。

参加者 26名

「いのちの誕生～卵管の中で卵子と精子が会うまで～」

2023年11月23日（木）13：30～15：00

旭川医科大学 講師 日野 敏昭

いのちのはじまりである受精卵は、卵子と精子が母親のからだのなかの卵管と呼ばれる器官で出会い受精することで誕生します。このとき、精子は卵管の中をどのように移動して卵子に出会うのでしょうか？本講義では、私たちの研究をふまえて、このしくみについて学んでいただきました。

卵管は、子宮と卵巣をつなぐ細長い管で、人だと下腹部あたりに左右一対存在します。子宮からやってきた精子は、ちょうど卵巣に近い側の卵管で卵子と出会い、受精にいたります。このとき、精子はどのようにして卵管内を移動して卵子の待つ受精の場に移動するのでしょうか？従来の理論だと、精子は卵子などがだす精子誘引物質や、卵管内の温度差などを手がかりに、受精の場から向かってくる緩やかな卵管液の流れのなかを、あたかもサケが産卵場まで遡上するかのよう、泳いで受精の場に移動するとされています。私たちは、この理論を、マウスをモデルに、生体の卵管で再現できるか検証を行ってきました。そこから浮かび上がってきたのは、従来の理論とは異なるものでした。

わたしたちは、マウス生体の卵管を観察するためのシステムを立ち上げ、卵管液の流れを観察しました。すると生体の卵管内では、卵管液は従来の理論とは異なり、受精の場に向かって相当な速度で流れていました。この速度はかなり速く、精子が泳ぐ速度の5倍以上と、精子が自由に泳げるような緩やかな流れではありませんでした。卵管液が、受精の場に向かって流れ続けているので、卵管液がどこからか常に補充されていると考えられます。可能性としては、子宮から来ている、もしくは卵管自体が分泌している、の2つが考えられます。これらの可能性について検証を行ったところ、卵管液は卵管自体が活発に分泌していることが分かりました。さらに私たちは、精子が卵管液の流れによって受精の場に移動しているとの仮説をたて、卵管液の流れを抑えることで、精子の受精の場への移動が起これなくなるかを確認しました。その結果、精子は卵管液の流れを妨げると受精の場に移動できなくなり、受精が起これないことが分かりました。

まとめますと、卵管内には卵管液が活発に分泌されていて、それが常に受精の場に送りだされていることが分かりました。そして精子は、その流れによって、受精の場に移動していることが示されました。すなわち、精子は泳いで受精の場に移動するという従来の理論は誤りだったこととなります。人によっては、「これはあくまでマウスを使った実験結果であって、人でも同じことが当てはまるとは限らないのでは。」と思われるかもしれませんが、ですが従来の、人で正しいとされてきた理論も、実はマウスを使った実験結果に下支えされてい

ます。今後、様々な動物種で同じような検証が繰り返されることで、生体の卵管内における精子の移動について真の姿が明らかになっていくことと思います。

本講義では、積極的に意見をのべ、質問して下さる受講生の方々が予想していたより多かったです。その質問は本質をつくもので、講師の私が改めて気付かされることがあり、逆に勉強させて頂きました。とても貴重な経験となりました。有り難うございました。

<講義風景>



冒頭、司会の日下部先生から受精の実態については、まだわからないことが多いとの紹介がありました。講義では、講師が自らのマウス実験をもとに、画像を含む最近の受精に至るまでの過程についての詳細な解説がありました。従来の「通説」と「逆行」する実験結果を示しながら、受精の不思議さを年配の受講者の前で緊張しながらも、熱心にお話ししていただきました。講義後の質疑応答も活発に行われました。

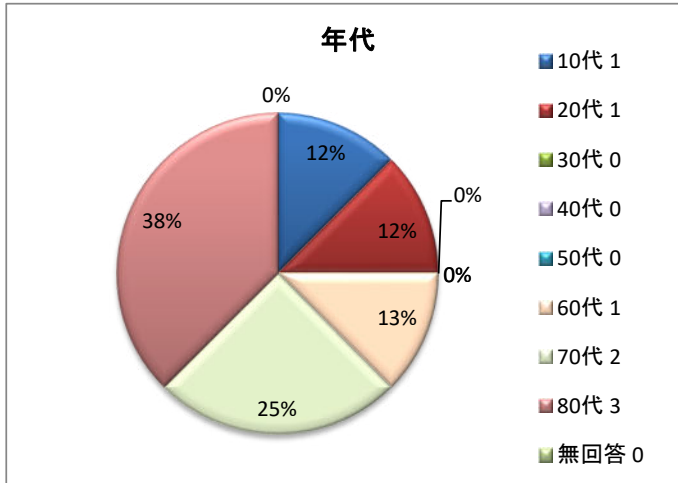
参加者 16名

「あさひかわオープンカレッジ」アンケート実施結果

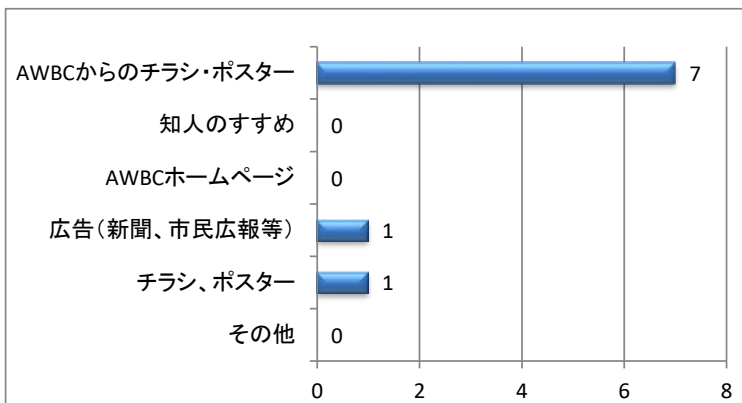
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」
 ①「システムエンジニアリングの実際について～宇宙開発アプローチをベースとして～」
 (06/24 (土) 13:30～14:30開催) アンケート結果

受講生 8名 回答者 8名
 回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。



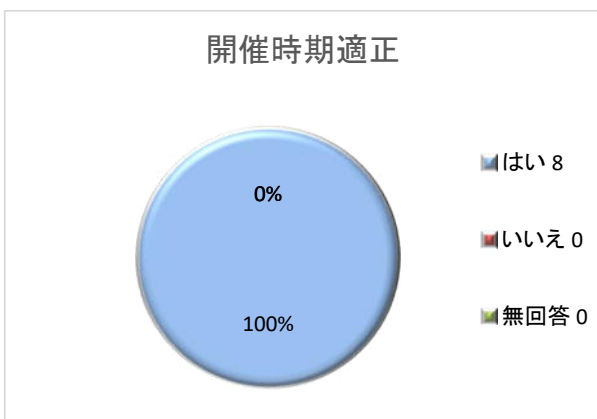
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



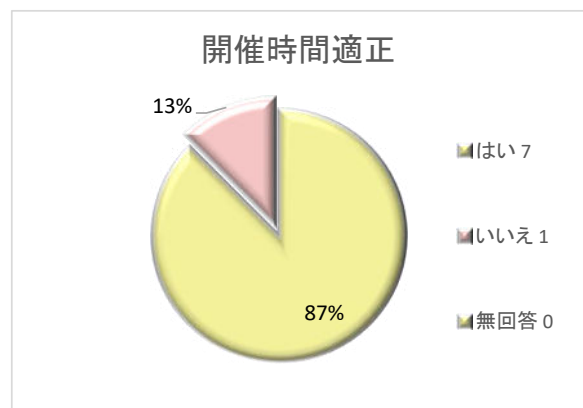
【備考】

○あさひばし
 ○akar i

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



○15時頃

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 鉱物関係
- 気候に関する事
- 宇宙研究による講座

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- かなり難しい講演であった
- すごく面白く、今後(将来)の考え方に役に立ちました。ありがとうございました

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」

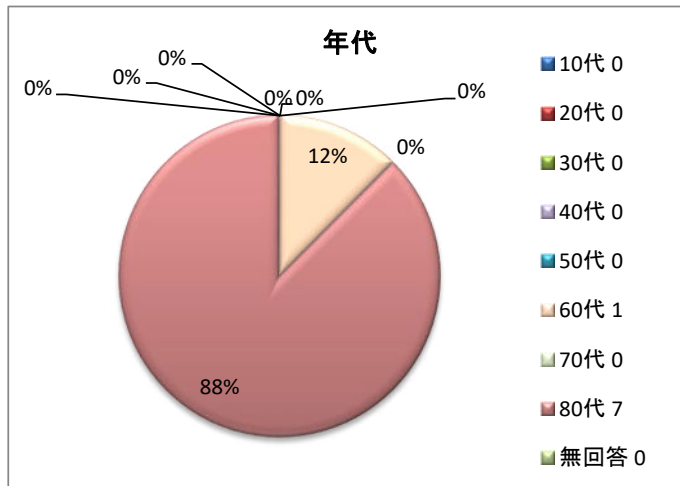
②「早期英語教育は役に立つのか？」

(07/08 (土) 13:30~15:30開催) アンケート結果

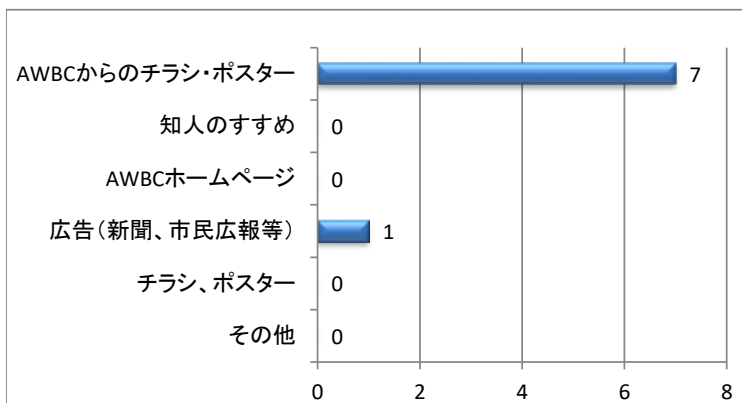
受講生 8名

回答者 8名
回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。



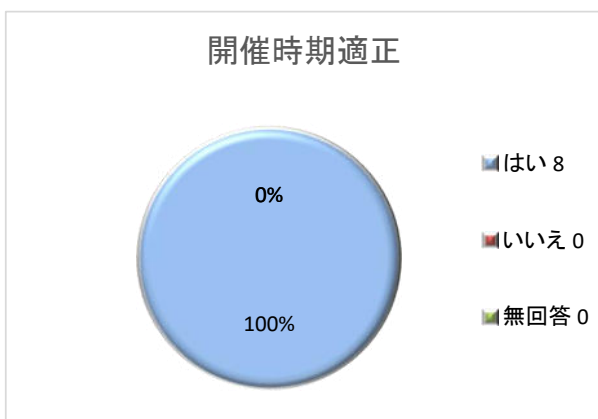
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



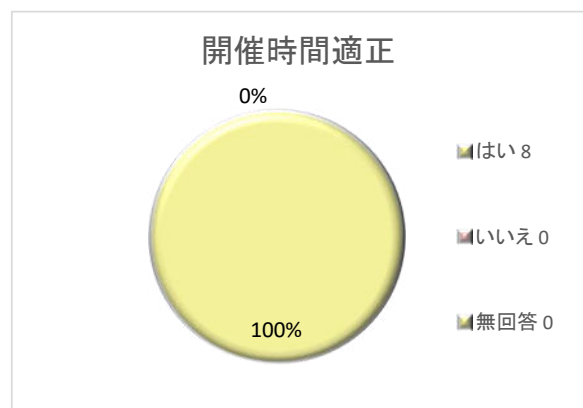
【備考】

○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 文学、科学、歴史、現代のいろいろな課題・問題など
- 人体に害がないとか体に良いとされている食品や薬品を科学的に解説する講座
- マスク着用の問題（義務ではないのに社会が強制、受講したかった講座もマスク着用で断念した。マスクが感染を防ぐという科学的な根拠はないという研究もある）

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- どんなジャンルの講座でも聴けるということが有難い。本日の英語教育に関する講義は、なるほど目からウロコ感じがいたしました
- 大変有意義でした。ありがとうございました
- 若い方の参加がないのには驚いています。わかりやすい講話でした。ありがとうございました
- 今日の講座を受講して、数年前から英語を学習しているが、今からでも向上できるという勇気をもたらしたように思います。ありがとうございました

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」

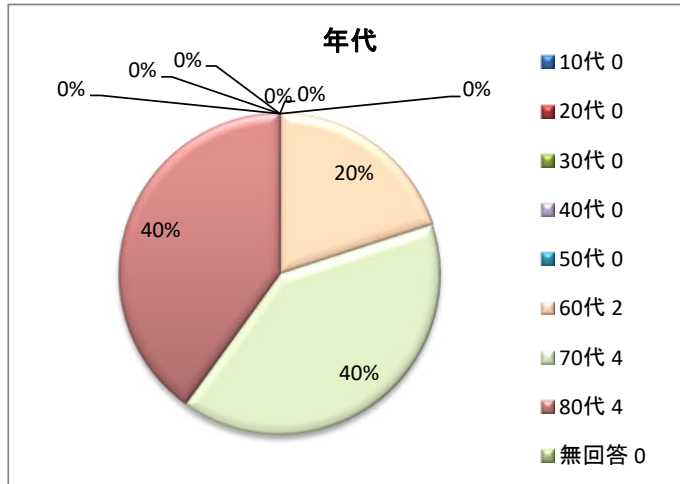
③「こどもホスピスを知っていますか?～こどもの命が輝く場所～」

(07/22 (土) 13:30～15:30開催) アンケート結果

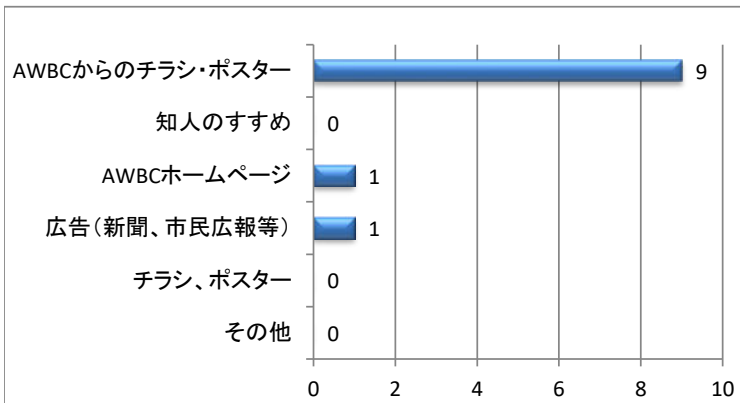
受講生 10名

回答者 10名
回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。

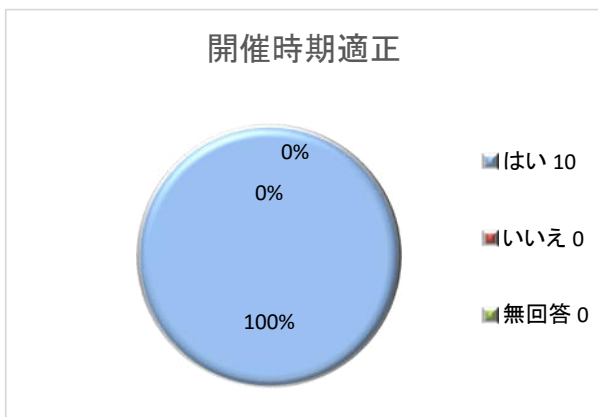


問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



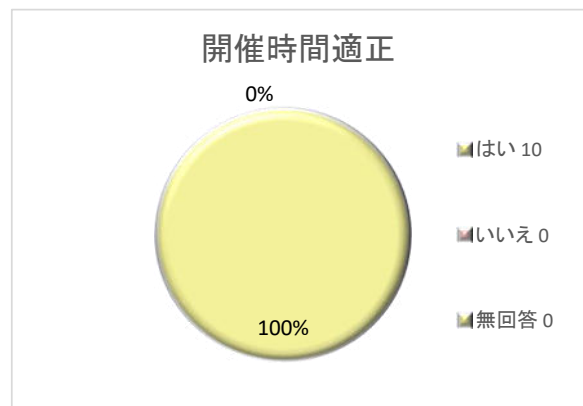
【備考】

問3. 開催時期は適切ですか。



○平日の開催を希望

問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 言葉についてのお話し
- 人との関わり方のお話し
- 社会参加出来る講座があればいい

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

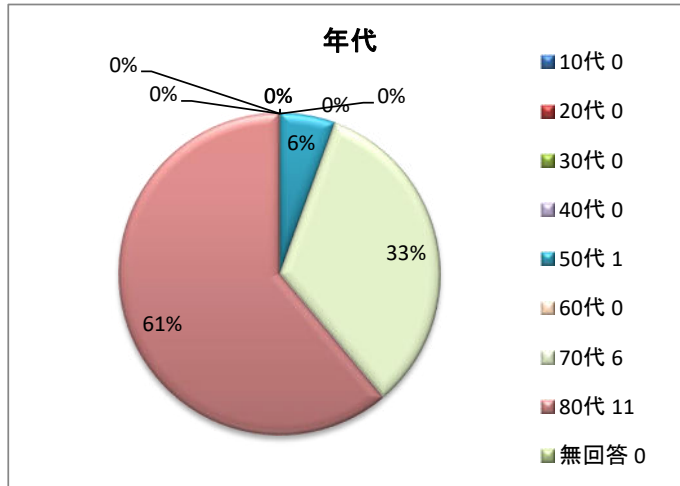
- 訴えたいことは、市民広報とかに記してほしい
- こどもホスピスという言葉は聞いていましたが、よくわかっていませんでした。今日はありがとうございました
- 本日は、ありがとうございます。大変大事な運動です。皆が応援できるような世の中であって欲しいです

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [前期]」

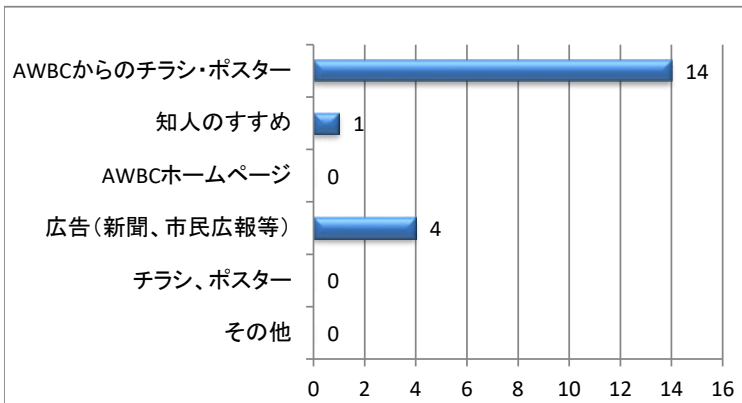
④「ウェルビーイング（幸福）社会実現のために」
 (08/26 (土) 13:30~15:30開催) アンケート結果

受講生 18名 回答者 18名
 回答率 100%

問1. あなたのことを教えてください。

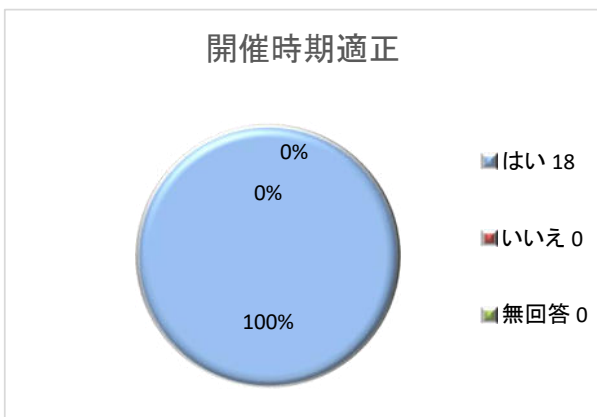


問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。（複数回答可）

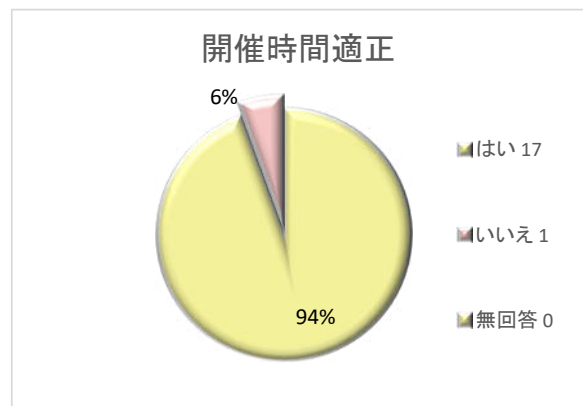


【備考】

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 地方自治体の将来展望
- 地域の今後の街づくり(過疎化対応)
- 美しい旭川の街づくり(汚れたイメージが強い街並みがきになる)
- ヒ素の話(吉田先生の)
- 講座を開いてくれるならどんな講座でも受講する
- 健康に関して
- 健康法について(自己管理が出来ていない)
- 高齢者世代の人間関係をどうするか(人間関係の希薄化で友人関係が悪い。友達がいない人が増大している)

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

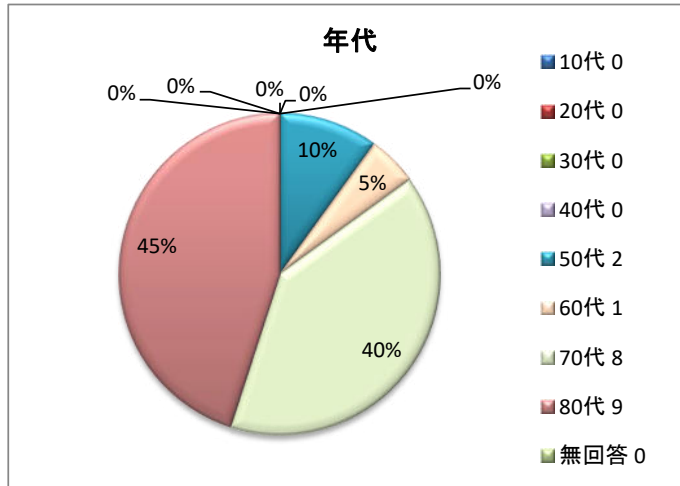
- 講義で、人間の健康・幸福にはたくさんの要素があり、食事・運動ばかりでなく、たくさんの自然や他のものに助け
- 初めて聞く言葉にひかれて今日は、参加しました。あまりよく分かりませんでした
- られながら、生きていくことが感じられました
- 普段聞けないけれど、身近なお話しありがとうございました
- 大変有意義な講座でした。ありがとうございました
- 大変有益な2時間でした。感謝！
- 身近な問題をわかりやすく解説くださって、とてもわかりやすく参考になります
- 幸福社会実現の実践の取組の支援をお願いしたい

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

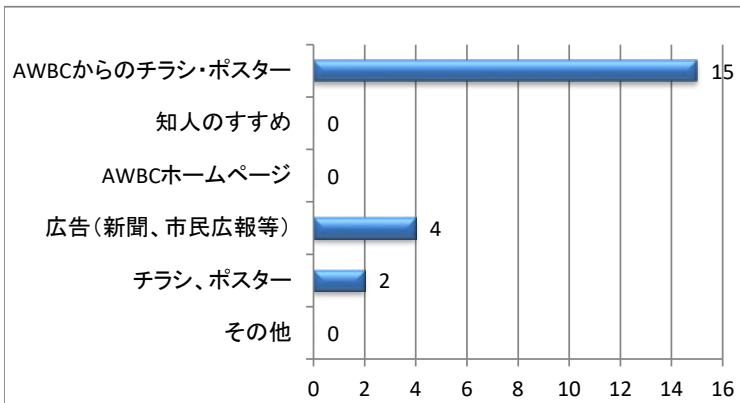
⑤「駅とまちづくり～新しい旭川駅の竣工から12年～」
(09/16(土) 13:30～15:30開催) アンケート結果

受講生 21名 回答者 20名
回答率 95%

問1. あなたのことを教えてください。



問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)

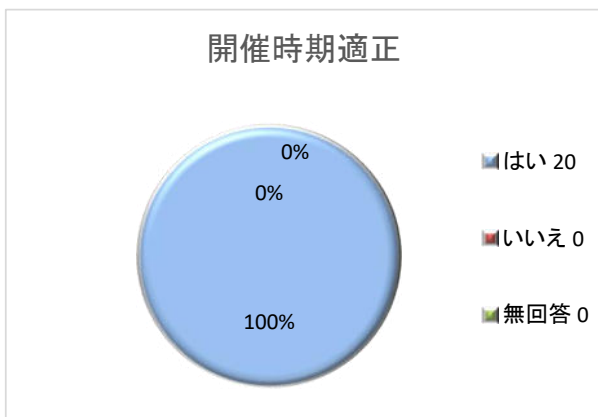


【備考】

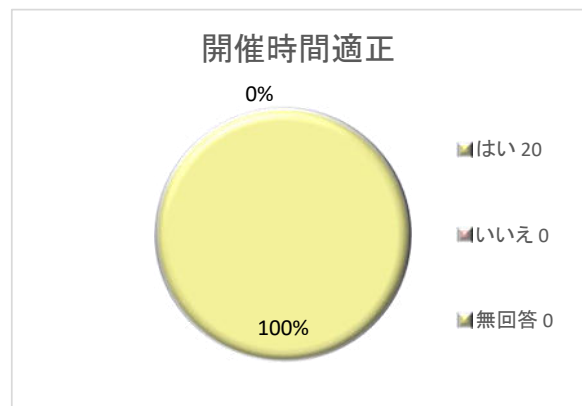
あさひばし
 Oakar i

職場
 公民館

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 旭川のアイヌ文化
- 街路樹の問題点
- AI(コンピューター関係)の活用方法など
- 自閉症等の精神疾患について
- 旭川市をとりまく自然環境について
- 郷土史(旭川の歴史)

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

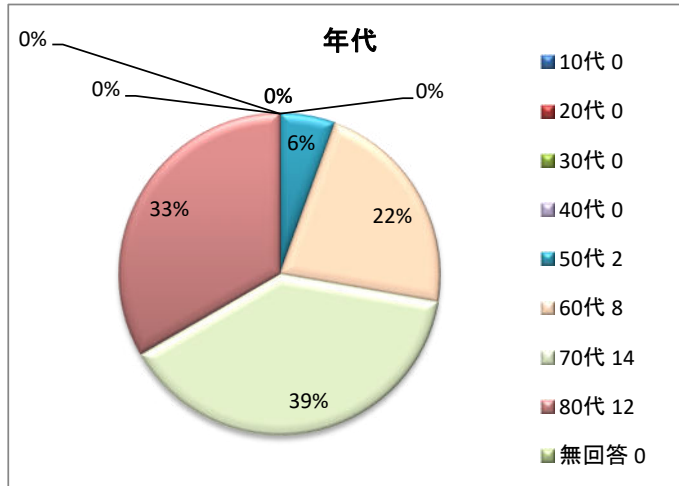
- 近く、旭川の歴史を勉強することになっており、色々参考になりました。ありがとうございました
- 旭川駅は、他の都市と比べても、デザイン・環境がすばらしく、市民として誇れる建造物の一つです。モダンなデザインで、ジャズが流れている駅はなかなかないですよ。近所に住んでいるので、よく駅周辺にきています。旭川駅・買物公園・北彩都がいろいろな機能を持っていることが分かりました
- 旭川も白老のようにアイヌ文化が古くから根付いていますので、市の観光スポットとして動物園のようにもう少し前面に出していただけたらと思います。駅舎を建てる立てる為の努力もさることながら、町づくり・川・橋・道路・公共施設・景観、住みやすい、そして心豊かになり、明るく、この旭川で生活していくことが出来るように、たくさんの配慮をなさっていることが、今日いろいろなお話を聞かせていただいて、目からウロコでした。ありがとうございました
- 買物公園の樹木は、枯葉で講演が汚いです。カラスの汚物で歩きにくく、花粉などで目が痛い。現在は飲食店も増え、樹木による衛生面も気になります。大矢先生に樹木による買物公園の問題点を伺いたいと思います。特に駅より遠いところは枯葉がひどく、歩くにも困ります。葉の上は滑り危険です。歩行者天国は歩きにくいです。駅付近は掃除されても、8条側はひどく危険です。風の流れて葉が集まってしまいます。現在の街路樹の問題点を教えてほしいです
- 昭和45年から旭川市民です。駅舎について、とっても良くわかり、誇れる建物であることが分かりました。子育て・仕事etcでゆっくりすることがなかったのが残念です。北彩都をゆっくり楽しみたいです
- 新しい旭川駅が造られるまでの工程を聴くことができたので大変勉強になりました
- 旭川の歴史を勉強しているが、知らないことが多く、まだまだ知らないことばかりです
- 旭川駅や買物公園の変遷を説明して下さって、懐かしく思いました。次回も参加したいと思います

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

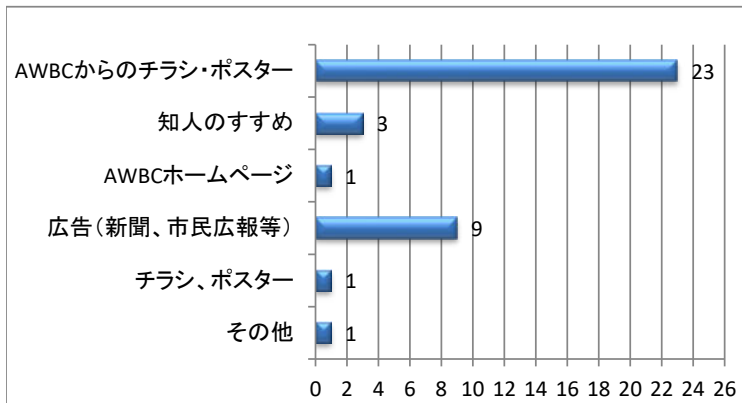
⑥「宗教とは何か？-人生における宗教の意味と功罪-」
(10/14 (土) 13:30~15:30開催) アンケート結果

受講生 41名 回答者 36名
回答率 88%

問1. あなたのことを教えてください。



問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)

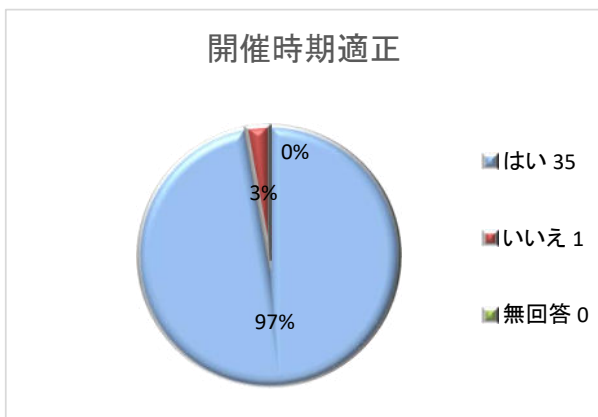


【備考】

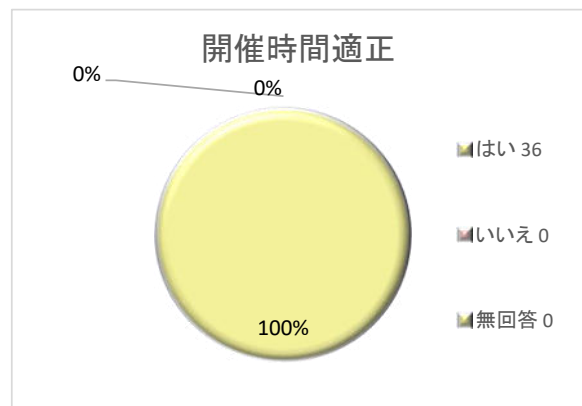
- あさひばし
- 道新まちかど情報
- あかり

- 講演者から

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



- 雪のないとき
- 4月ころ

問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 旭川の歴史(できれば近代史)
- 仏教について
- 現代の道徳について
- 上川アイヌの歴史
- 北海道・上川の食文化
- 日本史(近現代をわかりやすく)
- AIと人間の共存
- 花びらの数と数学
- 国内外からの来旭の方策?など
(旭川経済の活性化?)
- 社会哲学や道徳哲学など思想的な分野
- 北海道農業(稲作・野菜・花の生産者)の方の話
- これからの北海道について
- 古典を深掘り(万葉集・枕草子など)
- 書道の歴史(日本)

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

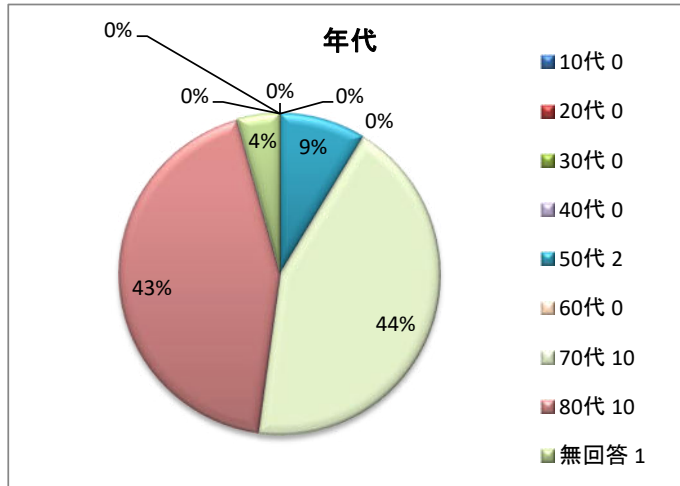
- SNSへの写真の投稿を楽しみにしています
- 有意義な講義でした。ますます、宗教に対する関心が高まりました
- 30年以上前に旭川混声合唱団の指揮者をされていた先生に、妻が指導をいただいていた。出産・子育てで妻は退団し、ご縁が遠くなっておりました。久しぶりにお元気でご活躍の様子を拝見し、講義を拝聴し背筋の伸びる思いです。本日はありがとうございました
- 身近にあって、しかし、わかっていない宗教について、とても明快でおもしろく理解できました
- 西洋の思想は戦闘的、東洋の思想は平和的という話が興味深かった
- ソ連・東欧の合唱交流に白井先生と同じHグループで参加したものです。(30年以上前ですが)白井先生のスマートなお話ぶりは全く変わっておらず感激しました。宗教は広くて深いもので、一般人には大変難しいものだと思っておりましたが、生活と関わりのある宗教について広く知ることができました。資料を持ち帰って、キーワードをもとに調べて学びを深めたいと思います
- 白井先生のお話しは素晴らしい。宗教について深く考えさせられました
- 宗教の話は難しい…いや、やさしい…どちらかな?
- 白井先生はキリスト教信者でないことで、偏ったお話しでなく素直にお話しが聴けました
- テーマが身近でわかりやすく、とても良かったです
- 東洋の宗教の有難さを改めて見直しました。毎月、お寺さんにお参りいただいておりますが感謝です
- とても良い機会を与えてくださり、感謝申し上げます
- 修道士たちによる「五線譜」の発明に新鮮な驚きを感じました。有意義で楽しかった
- 普通に知っていそうで、実はわかっていない事、よくわかりました。次にイスラム教ほか、他の宗教も取り上げてくださればと思います
- 目からうろこのお話しでした。ありがとうございました。白井先生のお話しは毎回良いものでしたが、今回は特別に感じられました

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

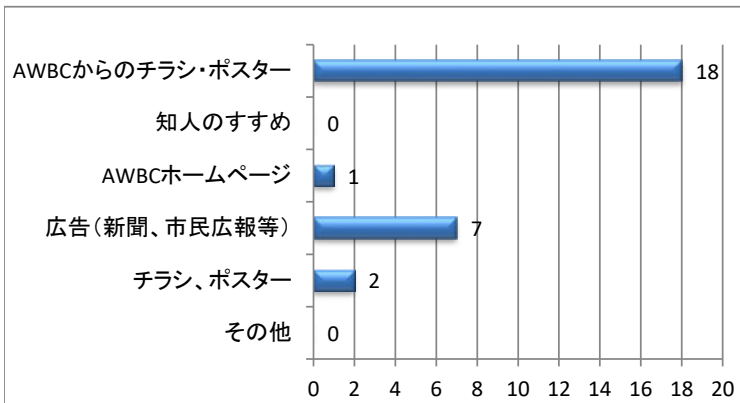
⑦「健康とは何か?～高齢者の健康と自己実現を考える～」
 (10/21 (土) 13:30～15:30開催) アンケート結果

受講生 26名 回答者 23名
 回答率 88%

問1. あなたのことを教えてください。



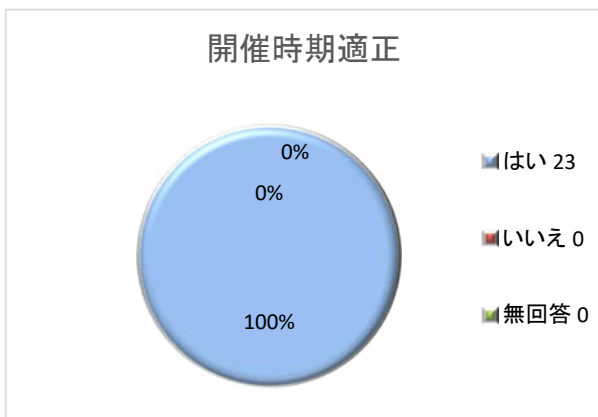
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



【備考】

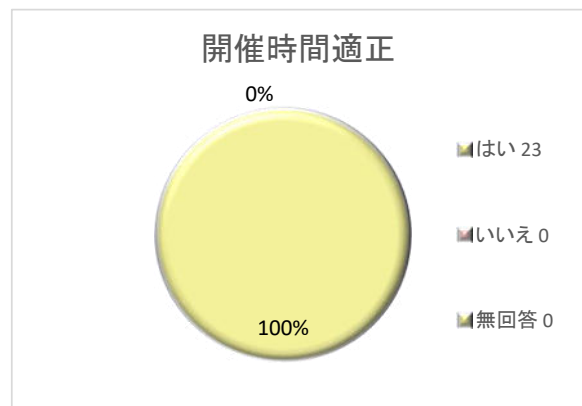
○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



○雪のないとき

問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 精神神経的な問題について(私の時代にはその方面の病名がなかったので[主人がその症例であった?が亡くなったので確認できません])
- 地域の活性化を図るには(人口減少、若者の流出などをどう止めるかの方策)
- どこかの国など、世界情勢について今起きている事などをわかりやすく解説してほしい
- 健康寿命について
- 介護の仕組みについて
- 今回のテーマ(健康とは何かなど)
- シニア世代のコミュニケーションカアアップ方(残りの人生を楽しく生きるための)

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 講座を開いてくださるなら、何でも受講したいと思います
- マイクなしの肉声、聞きやすかったです。大学の授業の雰囲気、懐かしく思いました。「サクセスフル・エイジング」を意識します
- 今までにない、とってもわかりやすい先生のお話しでした。これからも自信をもって社会に貢献しながら、生きていたいと思いました。ありがとうございました
- とても勉強になりました。ありがとうございます
- 今日の講義を受講して、老後の生活に新しい目標を持つことができた
- 非常にわかりやすい説明でした。今回のテーマでは、もっと参加者が多いと思っていましたが残念です。多くの方に聞いていただきたい内容でした
- 現場での実体験のある講師のお話しが、説得力があり興味深かったです
- シニア世代で、特に仲間意識が薄れてきていると感じる(男性は特に)
- 本日は、ありがとうございました。わかりやすくして良い講義でした。今のところ、投薬無の生活です。感謝です(生んでくれた両親に)今85才
- 時間帯が集まりやすく(出やすく)ちょうどいいです。今回の講話、資料も詳しく説明もとてもわかりやすかったです
- 身近なことについて、わかりやすくして良かった
- 人の生き方は色々あると思いますが、自分はどうかのかな?。考えさせられました

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「あさひかわオープンカレッジ [後期]」

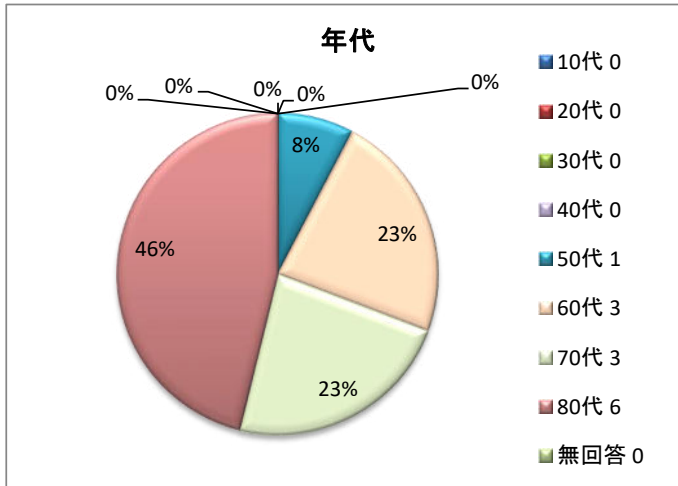
⑧「いのちの誕生～卵管の中で卵子と精子が会うまで～」

(11/23 (木) 13:30～15:00開催) アンケート結果

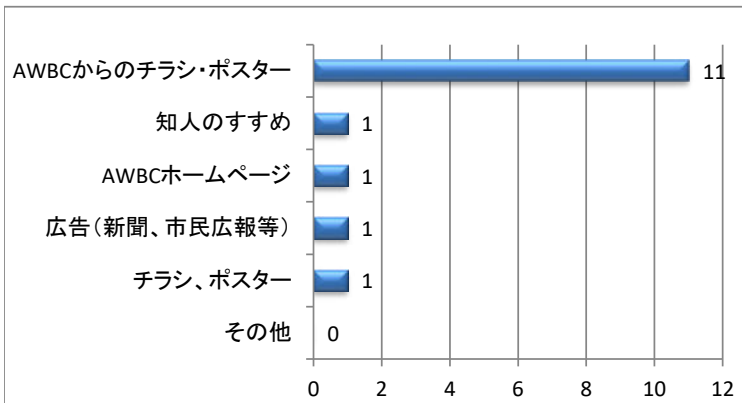
受講生 16名

回答者 13名
回答率 81%

問1. あなたのことを教えてください。



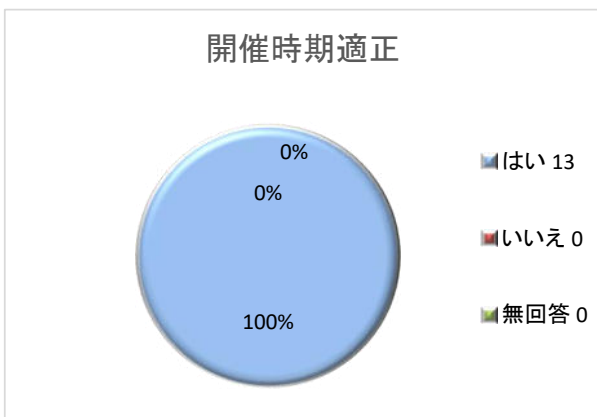
問2. 本講座の開催はどのようにして知りましたか。(複数回答可)



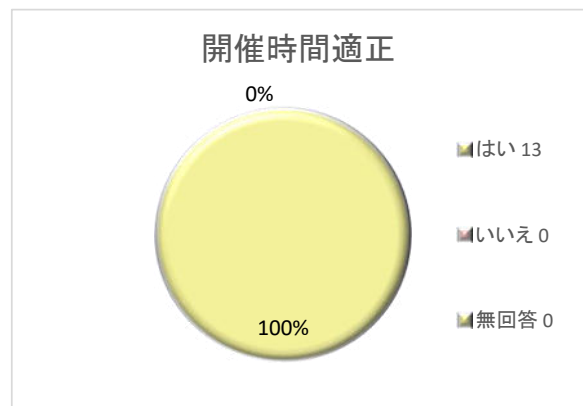
【備考】

○あさひばし

問3. 開催時期は適切ですか。



問4. 開催時間は適切ですか。



問5. 今後希望する講座のテーマをお書きください。

- 地域経済・地域産業
- 旭川の教育
- ロシアとウクライナやイスラエルとパレスチナなどの世界の紛争についての講義

問6. その他ご感想、ご意見、ご要望があればお書き下さい。

- 今日のお話しでは、「精子が自力で卵管の中で泳いで卵子に到達する」のではなく、「卵管液によって運ばれる」ということになるのでしょうか？これは新しい発見であり、驚きでした
- 勉強になりました。ありがとうございました
- とても興味深く拝聴させていただきました。先進国の人口減少は、この動き(活動)が本来の姿になっていないという事だなと思いました
- 難しい、でも興味のある話でした
- 個人的には、後期4講座のなかで、「宗教とは何か？」が興味深かった

一般社団法人旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
連携公開講座 2023
旭川市教育委員会共催
「あさひかわオープンカレッジ」報告集

2024年2月発行

編集・発行：一般社団法人旭川ウェルビーイング・
コンソーシアム
旭川市教育委員会